

1 関連文化財群の考え方

(1) 考え方

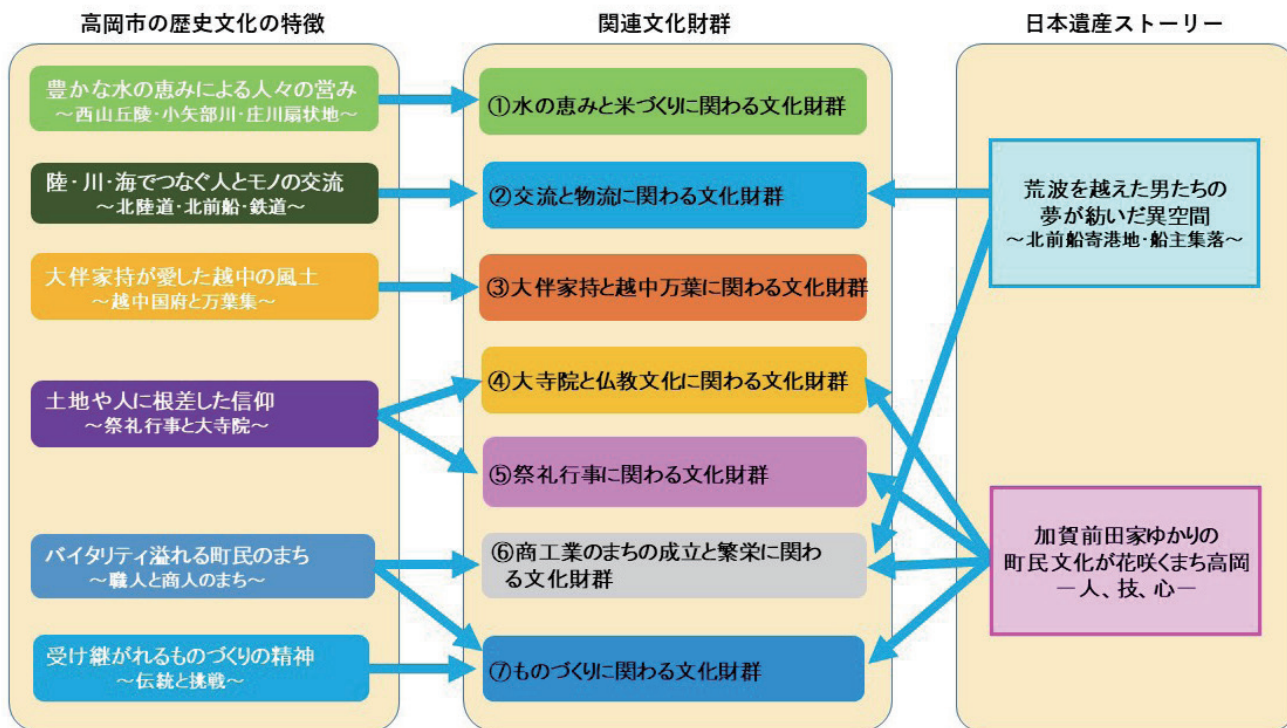
関連文化財群とは、「地域の多種多様な文化財を一定のまとまりとしてとらえたもの」であり、文化財の一体的な保存・活用を図ることを目的とする。指定や未指定を問わず、本市の時代特性や地域特性を表すテーマやストーリーにより、これまで個別に認識していた有形無形の文化財を関連付けすることで、未指定文化財の価値付けが可能となり、また、高岡市の歴史や風土、文化財をより分かりやすく理解し、その魅力を伝えていくことができるものである。

(2) 歴史文化の特徴との関係

歴史文化基本構想では8つの関連文化財群を設定したが、同構想の策定から12年間で新たに発見されたものや再認識されたものを含めて内容を精査し、本計画では第4章の高岡市の歴史文化の特徴から関連付け、7つの関連文化財群を設定する。

関連文化財群は、高岡市の歴史文化を表すキーワード“高岡らしさ”の象徴であり、それらを構成する文化財は、それぞれさまざまな面を持ち、複数の高岡市の歴史文化の特徴を示す。

また、日本遺産も「ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用」していくものであり、関連文化財群と同様の考え方といえる。本市で認定を受けた日本遺産ストーリーには複数の関連文化財群が含まれているとみることができる。特に「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち 一人・技・心」は高岡市の歴史文化の特徴の多くが取り込まれている。その関係性を示せば次のようになる。



高岡市の歴史文化の特徴と関連文化財群、日本遺産の関係

## 2 関連文化財群

### ① 水の恵みと米づくりに関わる文化財群

小矢部川左岸は県内で最も古墳が集中し、早くから栄えた。右岸は古くから稲作が行われ、加賀藩の財政を支える穀倉地帯となった。福岡周辺では菅栽培が行われ、菅笠は特産品となっている。



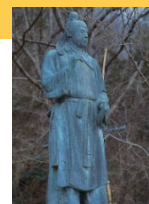
### ② 交流と物流に関わる文化財群

小矢部川と庄川の水運と伏木の港により多くの人とモノが行き交った。近世の高岡は物資の集散地として藩の経済の一翼を担った。明治に入ると鉄道や港などの近代化を行い発展した。



### ③ 大伴家持と越中万葉に関わる文化財群

万葉歌人の大伴家持は越中国守であった。『万葉集』のうち越中に関わる337首は「越中万葉」と呼ばれ、今も変わらぬ自然景観や国守の職務の一端を今に伝える貴重な資料である。



### ④ 大寺院と仏教文化に関わる文化財群

北陸最古級の廃寺や越中国分寺など古くから仏教が盛んである。国泰寺や勝興寺、瑞龍寺などに多くの文化財が残されている。仏教はまた、銅器や漆器、仏壇など産業に大きな影響を与えた。



### ⑤ 祭礼行事に関わる文化財群

祭礼は、神への感謝と祈念の行事であり、住民の情熱が注ぎ込まれた。高岡御車山祭や獅子舞など、古くからの精神や作法等を伝える。



### ⑥ 商工業のまちの成立と繁栄に関わる文化財群

高岡城の廃城後、商工業都市に転換した高岡は藩の経済の一翼を担った。商人が蓄えた資本は明治以降、産業基盤などに投資して近代化を図り、「北陸の商都」と呼ばれた。



### ⑦ ものづくりに関わる文化財群

ものづくりの歴史は弥生時代の玉づくりに遡る。近世の高岡は鋳物や染物、漆器など職人の町であった。鋳物や漆器は幕末から明治にかけて美術工芸品としての技術も向上した。高岡のものづくりは今も発展し続けている。



## 関連文化財群 ① 水の恵みと米づくりに関わる文化財群

### 【概要】

西山丘陵と並行する小矢部川左岸は、庄川の氾濫による水害が比較的少なく安定した地域であり、勝木原など原始の時代から人々の営みがみられるほか、福岡町上野や福岡町下向田をはじめとする無数の古墳群、また城が平や江道などの横穴墓群が集中しており、早くから人口集積が進んだ成熟した地域であった。

小矢部川右岸は、氾濫を重ね頻りに河道が移動することで形成された庄川扇状地で、その扇端には湧水帯と自噴井帯が広がっている。このため、佐野台地にある石塚遺跡や下老子笹川遺跡などでは、古くから稲作が行われていたことが確認されている。

近世には加賀藩の改作法によって新田開発が図られ、新たな村ができ、また河川では防災のため様々な土木工事が行われた。加賀藩は、米の効率的な収集と円滑な流通を目的に主要な河川や道沿いに年貢米を納める御蔵を設置し、米は藩内で消費する分を除いて小矢部川や千保川を通じて吉久・伏木まで運ばれ、最終的に伏木から大坂・江戸へ送って売却された。

市南部に、豊かな水を活用した耕作によって形成された散村の風景が今も残るほか、市内に武田家住宅や佐伯家住宅といった近世豪農の民家、溜め池や用排水路、治水に関係する社や碑、橋や水門などを見ることができ、加賀藩の財政を支える穀倉地帯であった歴史を物語っている。

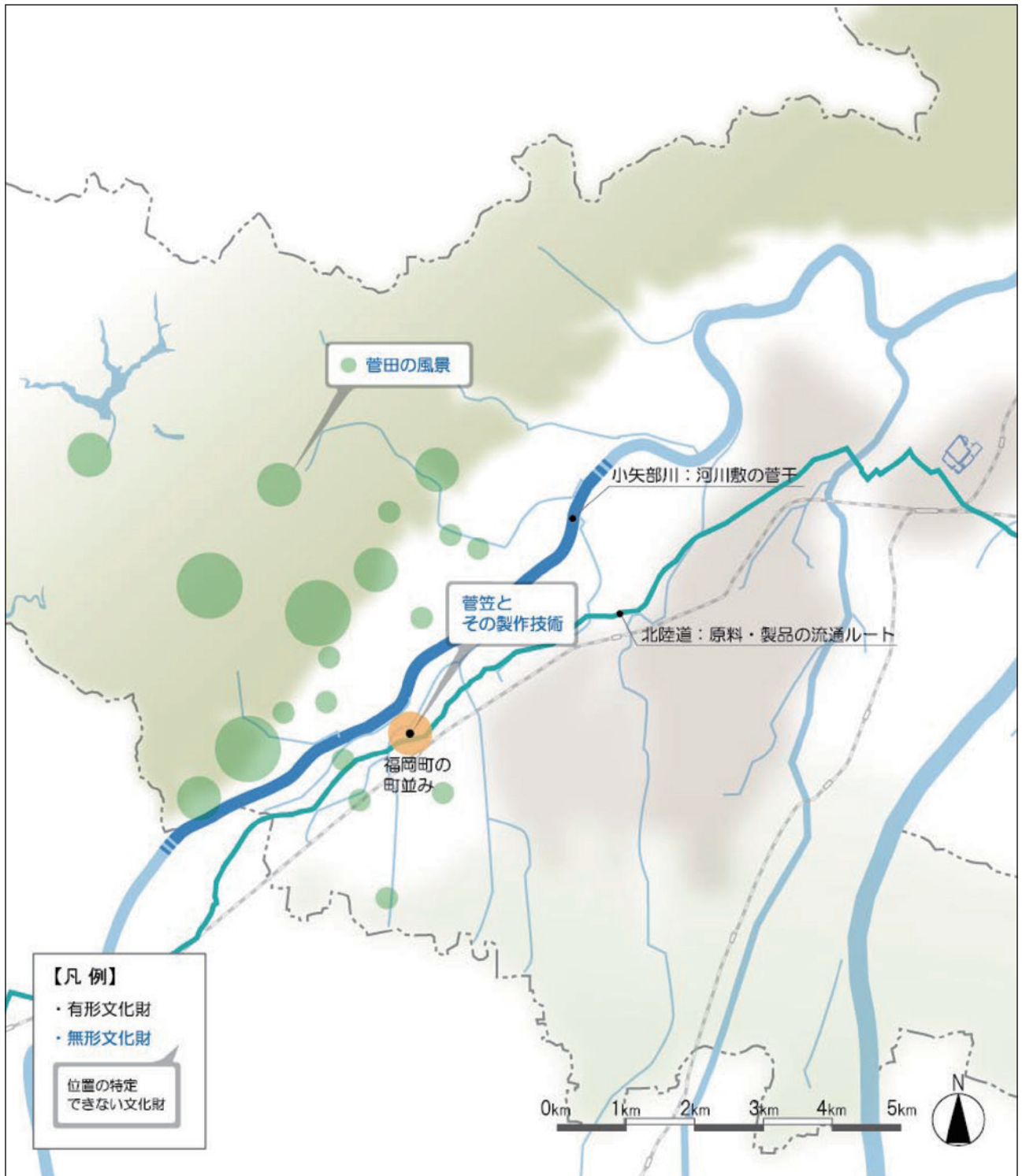
また、小矢部川左岸の西五位や赤丸地区では、稲や麦以外に菅を栽培している。近世、水田に稲以外の作物栽培を禁じられたが、菅は肥沃な水田が適し、日当たりが悪くとも育つことから、稲作不適地を利用するものとして栽培された。加賀藩が菅笠生産を奨励したことにより菅笠づくりが盛んに行われ、中でも福岡周辺のものは全国と比較しても質が高いとされた。明治時代に菅笠づくりは最盛期を迎え、販路も全国に広がった。現在は福岡地域でのみで生産されており、その生産数は減少したものの、依然として全国生産数の9割を占め、出荷先に応じて多様な形状のものが製作されている。

これらは原始の時代から続く水とともに暮らす人々の生活を物語る文化財群である。

### 構成文化財

番号	類型	名称	時代	指定等
1	遺跡	石塚遺跡	原始・古代	
2	遺跡	上野の古墳群	古代	市指定
3	遺跡	下向田古墳群	古代	市指定
4	遺跡	城が平横穴古墳	古代	県指定
5	遺跡	江道横穴古墳群	古代	市指定
6	遺跡	加茂横穴墓群	古代	市指定
7	遺跡	須田藤ノ木遺跡	古代	
8	建造物	武田家住宅	近世	国指定
9	古文書	武田家文書	近世	
10	建造物	佐伯家住宅	近世	国指定
11	文化的景観	散村の景観	近世・近代	
12	文化的景観	用水・水路・水門等	近世・近代	
13	文化的景観	菅田と菅干	近世	
14	民俗技術	越中福岡の菅笠製作技術	近世	国指定
15	伝統的建造物群	福岡の町並み	近代	
16	建造物	雅楽の館	近世	
17	古文書	杉野家古文書	近世	市指定
18	古文書	戸出野開御印状	近世	市指定
19	伝統的建造物群	吉久伝統的建造物群保存地区	近世・近代	国選定
20	建造物	能松家住宅主屋	近代	国登録
21	動物・植物・地質鉱物	トミヨとゲンジボタル及びヘイケボタル生息地		県指定

構成文化財の分布状況



- 【課題】**
- 農業従事者の高齢化、人口の減少により、耕作放棄地が年々増加しており、美しい風景や伝統文化が失われつつある。
  - 往時の豪農の館の姿を残す武田家住宅や佐伯家住宅の周知が不十分である。
  - 越中福岡の菅笠は、原料となる菅田の面積が減少し続けており、菅田や菅干の景観が失われている。
  - 菅笠製作技術者が減少しており、製作技術の伝承が危ぶまれている。
  - 遺跡に関する既往の調査結果の整理・研究が進んでいない。また、市民へ調査結果の周知が足りていない。

- 【方針】**
- 地域ぐるみの営農活動等を支援し、農業・農村の多面的機能を発揮していく。
  - 武田家住宅や佐伯家住宅の説明内容の充実・施設の公開を引き続き行う。
  - 良質な菅の供給に向けた調査研究を行い、菅田や菅干の景観の保全に取り組む。
  - 菅笠の製作技術の保存・継承のための総合的な取り組みを行う。
  - 引き続き把握調査を行うとともに既往の調査結果の整理を行う。また、出土品などを用いて当時の生活を市民に分かりやすく情報発信を行う。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群① 水の恵みと米づくりに関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	継続	農村環境保全活動への支援	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための地域活動にかかる支援を行う。	○		○			
2	継続	武田家住宅の公開	重要文化財武田家住宅を公開する。	○					
3	継続	佐伯家住宅の公開	重要文化財佐伯家住宅を公開する。	○	○				
4	継続	菅栽培調査事業	収穫までの菅田の管理工程及び作業効率の軽減に向けた調査を行う。	○	○				
5	継続	菅田等の景観の保全に向けた取り組みの推進	菅栽培調査事業以外の菅田等の景観の保全の方法について検討を行う。	○	○	○	○		
6	継続	菅笠保全対策事業	菅笠づくりの後継者育成の指導や研修、菅田の調査、新商品の開発や販路開拓を行う。	○	○		○		
7	継続	市内遺跡発掘調査事業 【再掲】	埋蔵文化財の試掘調査及び発掘調査を行い、報告書を発行する。	○					
8	継続	市内遺跡既往調査整理事業	既往の調査結果について整理・研究を行う。	○			○		
9	継続	発掘調査の現地見学会 【再掲】	発掘調査成果について、市民への見学会を開催する。	○					

【概要】

砺波平野の穀倉地帯を背負い、小矢部川と庄川による水運と河口に位置しながら洪水の影響を受けにくい台地のある伏木という天然の良港を有する高岡市域では、縄文時代から現代まで多くの人とモノが行き交ってきた。

石塚遺跡では糸魚川産のヒスイを山陰・近畿の製作技術で加工する弥生時代の勾玉の工房が発見され、桜谷古墳から百済や畿内との関係を示す金具などが出土するなど、日本海を通じた交易・交流を示している。律令制度によって西山丘陵沿い（山根道）は官道として駅が整備され、能登と放生津へ向かう海浜道や小矢部川、庄川の舟運、そして海路と様々な交流の「みち」に恵まれた地勢であった伏木は、8世紀ごろより越中国府の所在地として政治・経済・文化の中心地となった。

鎌倉時代後半に気候変動によって海面が下ると、伏木の港湾機能、すなわち軍事的・経済的機能が低下し、守護所は伏木から放生津に移ったが、小矢部川左岸は、毎月、日を決めた定期市が開催されるなど水陸交通の要衝であり消費地であった。また倶利伽羅峠から木舟－戸出－中田－水戸田と越中西部を最短距離で横切る戸出・中田往来が発達し、木舟には城下町が広がった。

小矢部川右岸は左岸のような市はなかったが、天正14年（1586）、守山城に入城した前田利長が篠川村（笹川）に楽市楽座の新しい定期市を設置した。やがて北陸道を小矢部川右岸に移すと小矢部川左岸の市場は衰微した。その後、利長は一大穀倉地帯である砺波平野と高岡町・木町・伏木等をつなぐ水運・陸路の要衝に高岡城を築き、続く利常は高岡城の廃城後に町内外を縦横に結ぶように発達した流通・往来システムを構築した。こうして高岡町は米や綿などの取引を掌握し、物資の集散地として加賀藩の経済流通の一翼を担い発展した。北前船が登場すると伏木は大坂をはじめとした全国の港と越中の窓口となり、北海道交易では砺波平野へニシン肥料、北海道へ米、藁、釜などを取引して栄えた。

近代になると、冬に輸送できない北前船より安全・大量・低廉な汽船の需要が高まった。藤井能三が中心となって日本で最初の西洋式灯台や私立測候所の建設などの近代港湾化を進めたほか、伏木から城端（南砺市）まで民営の中越鉄道を開通させて小矢部川の舟運を陸運に変えるなど県内でいち早くインフラの近代化を行った。

伏木は物資の移出入港、中越鉄道は富山県西部の大動脈となり、高岡は中継駅として富山県の貿易と産業の発展に貢献した。明治40年（1907）の北陸人造肥料株式会社をはじめ、第一次大戦の好景気に乗じて伏木には大工場が並び、臨海工業地帯が形成された。水力発電による低廉な電力加え、大型貨物船が着岸でき鉄道が整っている伏木港の海陸運輸の利便性に優れた立地によるものであった。

これらは交通の要衝として発展してきた歴史を物語る文化財群である。

構成文化財

番号	種類	名称	時代	指定等
1	遺跡	石塚遺跡	原始・古代	
2	遺跡	桜谷古墳	古代	国指定
3	考古資料	桜谷古墳出土品	古代	
4	遺跡	越中国府関連遺跡	古代	
5	遺跡	木舟城跡	中世	県指定
6	遺跡	石名田木舟遺跡	古代・中世	
7	古文書	木造篠川村市場制札	近世	県指定
8	古文書	前田利長公御親書	近世	市指定
9	建造物	旧秋元家住宅	近代	市指定
10	古文書	秋元家文書	近世	
11	古文書	八坂家文書	近代	

番号	種類	名称	時代	指定等
12	建造物	旧伏木測候所（庁舎・測風塔）	近代	国登録
13	建造物	高岡商工会議所伏木支所（旧伏木銀行）	近代	国登録
14	建造物	棚田家住宅	近代	国登録
15	伝統的建造物群	吉久伝統的建造物群保存地区	近世・近代	国選定
16	伝統的建造物群	戸出の町並み	近代	
17	伝統的建造物群	中田の町並み	近代	
18	伝統的建造物群	福岡の町並み	近代	
19	遺跡	山根道		
20	遺跡	北陸道		
21	遺跡	戸出・中田往来		
23	遺跡	中越鉄道	近代	
24	名勝地	小矢部川		
25	名勝地	千保川		
26	名勝地	庄川		

### 構成文化財の分布状況



- 【課題】**
- 原始や古代における交流と物流についての研究が進んでいない。
  - 北前船関係の資料の調査が不足している。
  - 街道沿いの町並みや石造物等が失われつつある。
  - 交通網の歴史は現代の集落の歴史につながっているが、住民に十分に理解されていない。

- 【方針】**
- 原始や古代における交流と物流の研究を進める。
  - 北前船関連の資料の収集及び把握されている資料の調査を行う。
  - 街道沿いの文化財の現状の確認を行い、必要に応じて文化財の指定等を行う。また、街道の町並みの保全に向けた整備を行う。
  - 戸出、中田、福岡、立野、吉久など街道沿いに栄えた町を中心に地域の歴史を学ぶ場を創出する。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群② 交流と物流に関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	継続	市内遺跡発掘調査事業 【再掲】	埋蔵文化財の試掘調査及び発掘調査を行い、報告書を発行する。	○					
2	継続	市内遺跡既往調査整理事業 【再掲】	既往の調査結果について整理・研究を行う。	○			○		
3	継続	地域資料継承支援事業 【再掲】	産学官連携によって、地域資料（古文書等）の把握調査を行う。	○			○		
4	新規	地域資料目録作成事業 【再掲】	把握した地域資料の中から、目録作成を行う。	○			○		
5	新規	北前船資料調査事業	把握した北前船関連資料の調査を行う。	○			○		
6	継続	北前船資料館における企画展示	北前船資料館で企画展示を行う。	○					
7	継続	文化財の指定、選定、登録 【再掲】	指定等文化財の指定・選定・登録を行い、保存を図る。	○	○				
8	継続	市内町家等再生事業 【再掲】	経年劣化や損傷がみられる町家を歴史的風致形成建造物に指定し、その修理に支援する。	○	○				
9	継続	県道岡・笹川線道路整備事業	照明設備及び電柱の修景整備を行う。また、道路管理者においてカラー舗装等の整備を行う。	○		○			
10	継続	吉久伝統的建造物群保存地区保存修理事業	吉久における伝統的建造物の修理、修景事業の実施。	○	○				
11	継続	吉久地区道路修景整備事業	吉久の町並みに調和した道路修景事業を行う。	○		○			
12	継続	公民館・学校への出前講座 【再掲】	出前講座等で地域の文化財の魅力を発信する。	○					

【概要】

越中国府は、現在の伏木に置かれた。伏木からは緑釉陶器や古代瓦、硯などの遺物が出土しているほか、「大伴」や「東館」等の字名など、国府を物語る有形・無形の文化財が残されている。

天平18年（746）、国守として越中国府に赴任した大伴家持は、中央における藤原氏と橘氏との政争の中で、東大寺建立事業の主導権を握るため、越中国での東大寺墾田地確保の重責を負ってきたと言われている。また、『万葉集』の編纂に重要な役割を果たした歌人でもあり、自作の歌479首をその中に残している。越中在任中の5年間に詠んだ自身の歌223首を含め、越中に関わりのある歌337首が『万葉集』に収められており、大和を中心とする畿内に次ぐ万葉の故地となっている。これら337首の歌は後世になって「越中万葉」と呼ばれるようになった。

天平勝宝二年正月二日に国庁にて饗を諸の郡司等に給ふ宴の歌一首

あしひきの 山の木末の寄生取りて 挿頭しつらくは 千年ほくとそ

とあるように万葉集は、当時の越中国府の様子を伺い知る貴重な資料となっている。また、

立山に 降り置ける雪を 常夏に 見れども飽かず 神からならし

馬並めて いざうち行かな 渋谿の 清き磯廻に 寄する波見に

雄神川 くれなるにほふ、娘子らし 葦附採ると 瀬に立たすらし

もののふの 八十少女らが 汲みまがふ、寺井の上の 堅香子の花

など高岡の自然の美しさや農作業の風景などが情感豊かに著されており、現在の高岡の風景からも当時の情景を見出すことができる。例えば葦附は、「上麻生のあしつきのり」として県の天然記念物に指定されている。また渋谿は現在も雨晴海岸の名で海越しに3,000m級の立山連峰が眺められる景勝地となっている。

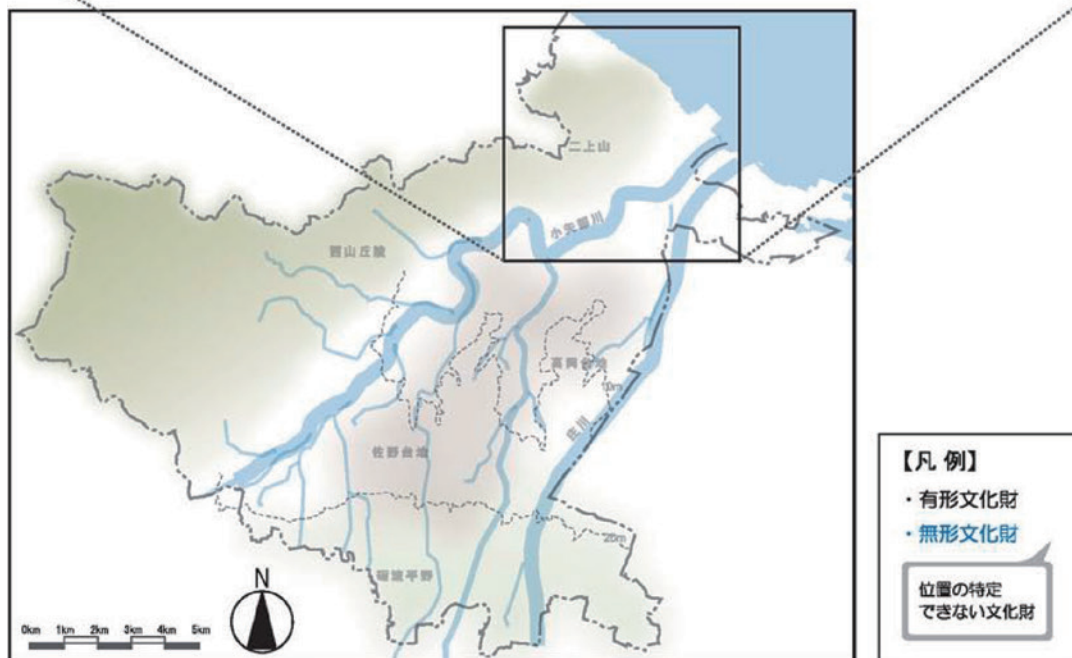
そのため、松尾芭蕉や与謝野晶子などの文人が北陸への旅において越中万葉の歌枕を訪ね、家持への思いを歌っている。家持が詠んだ渋谿は、松尾芭蕉の「おくのほそ道」に係する優れた風致景観「おくのほそ道風景地－有磯海－」として国名勝に指定されている。

また、「天下の書府」と呼ばれた加賀前田家は、貴典籍を収集するだけでなく、研究も奨励していた。天和3年（1683）、5代当主前田綱紀は、射水郡の十村役に命じて万葉集の歌枕を調査させ、その成果は歌碑・故地碑の建立となって表れた。越中万葉故地であることを示す歌碑等の建立は、越中万葉故地の検証・保存への尽力につながった。万葉のふるさとを物語る文化財群である。

構成文化財

番号	種類	名称	時代	指定等
1	遺跡	越中国府関連遺跡	古代	
2	遺跡	越中国分寺跡	古代	県指定
3	その他	古代史関連地名		
4	その他	越中万葉		
5	名勝地	二上山		
6	名勝地	雨晴海岸		
7	名勝地	おくのほそ道の風景地－有磯海－		国指定
8	動物・植物・地質鉱物	上麻生のあしつきのり		県指定
9	動物・植物・地質鉱物	かたかご（カタクリ）群生地		
10	その他	歌碑		
11	典籍	万葉集の断簡		

構成文化財の分布状況



- 【凡例】**
- ・有形文化財
  - ・無形文化財
- 位置の特定  
できない文化財

- 【課題】**
- 万葉集愛好家が高齢化している。また、開町400年記念事業以降、市民の万葉のふるさとする意識が低下している。
  - 越中国府関連遺跡の研究が十分でない。また、万葉集と連携した情報発信が少ない。
  - あしつきのりやかたかご群生地など万葉集に詠まれた植物が自生する場所が減少している。

- 【方針】**
- 雨晴海岸や二上山などの景勝地の紹介や越中万葉かるた大会、万葉集全20巻朗唱の会などを通じて万葉集に触れる機会を増やす。
  - 越中国府関連遺跡の既往の調査結果を整理し、万葉集研究と発掘調査の成果などを合わせて、越中万葉をよりイメージしやすくし、市民の郷土愛を醸成するような情報発信を行う。
  - 植栽方法の講座など情報発信を行い、万葉植物の普及を推進する。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群③ 大伴家持と越中万葉に関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	継続	越中万葉かるた大会の開催	高岡古城ライオンズクラブが開催する越中万葉かるた大会の開催			○	○		
2	継続	高岡万葉まつり事業 【再掲】	万葉集全20巻朗唱の会、芸能発表、万葉茶会など多彩な万葉関連行事を通して「万葉のふるさと高岡」をPR	○		○	○		
3	継続	万葉歴史館調査研究事業	広く万葉集関係資料・文献等の調査研究を行う。	○					
4	継続	市内遺跡発掘調査事業 【再掲】	埋蔵文化財の試掘調査及び発掘調査を行い、報告書を発行する。	○					
5	継続	市内遺跡既往調査整理事業 【再掲】	既往の調査結果について整理・研究を行う。	○			○		
6	継続	万葉歴史館における企画展示	万葉歴史館で企画展示を行う。	○					
7	継続	埋蔵文化財センターにおける企画展示	万葉歴史館と連携した企画展示を行う。	○					
8	継続	上麻生のあしつきのり管理支援	あしつきのりの管理をしている中田地区天然記念物保存会を支援する。	○		○			
9	継続	かたかご（カタクリ）植栽支援	かたかごの球根の配布や植栽方法の講座を行う。	○		○			
10	継続	万葉植物の普及	市の花（かたかご）・花木（さくら）・木（つまま）の植栽の推進	○					

【概要】

奈良時代から平安時代にかけて、寺院の建立に合わせて仏教とともに当時の先端である都の知識や技術が越中にもたらされた。伏木で発見された北陸最古級の寺（御亭角廃寺）や福岡町の石名田木舟遺跡で出土した型押しで阿弥陀三尊像を浮き上がらせた粘土板、国分寺薬師堂に伝わる平安時代の等身大の天部像など、古くから市域に仏教が広がっていたことが確認されている。

鎌倉時代には守護所の武士や荘園領主などによって時宗や浄土宗が広まったが、南北朝の争いの中で衰退していった。一方で、禅宗が広まり、西山丘陵沿いや二上山を中心に多くの寺院が建立された。これらの寺院には多くの文化財が伝わっている。中でも国泰寺は、後醍醐天皇から京都南禅寺と同格の勅願所とされたとし、戦乱によって荒廃するも法灯を守り続け、二上山の縁に巨大な伽藍を有する国泰寺派大本山として修業の場となっている。

室町時代、浄土真宗は中興の祖とされる本願寺8世蓮如によって畿内から北陸へと教線を広げていった。現在も市内の寺院の6割以上が浄土真宗である。越中一向一揆勢力の代表であった勝興寺は、伏木古国府へと移り、西本願寺、前田家、公家などとも関係を深め、繁栄した。現在、壮麗な本堂、土塁と濠を巡らした境内地、江戸時代から変わらない伽藍が残り、「紙本金地著色洛中洛外図六曲屏風」などの宝物が残されている。

前田利長によって高岡城と城下町が築かれると、城の防御のため郊外の寺院が町中へ移転させられた。また、加賀前田家3代当主利常は、前田利長の菩提を弔うため菩提寺瑞龍寺を大改修し、加賀藩の功労者の菩提を弔うにふさわしい威容を今に伝えている。

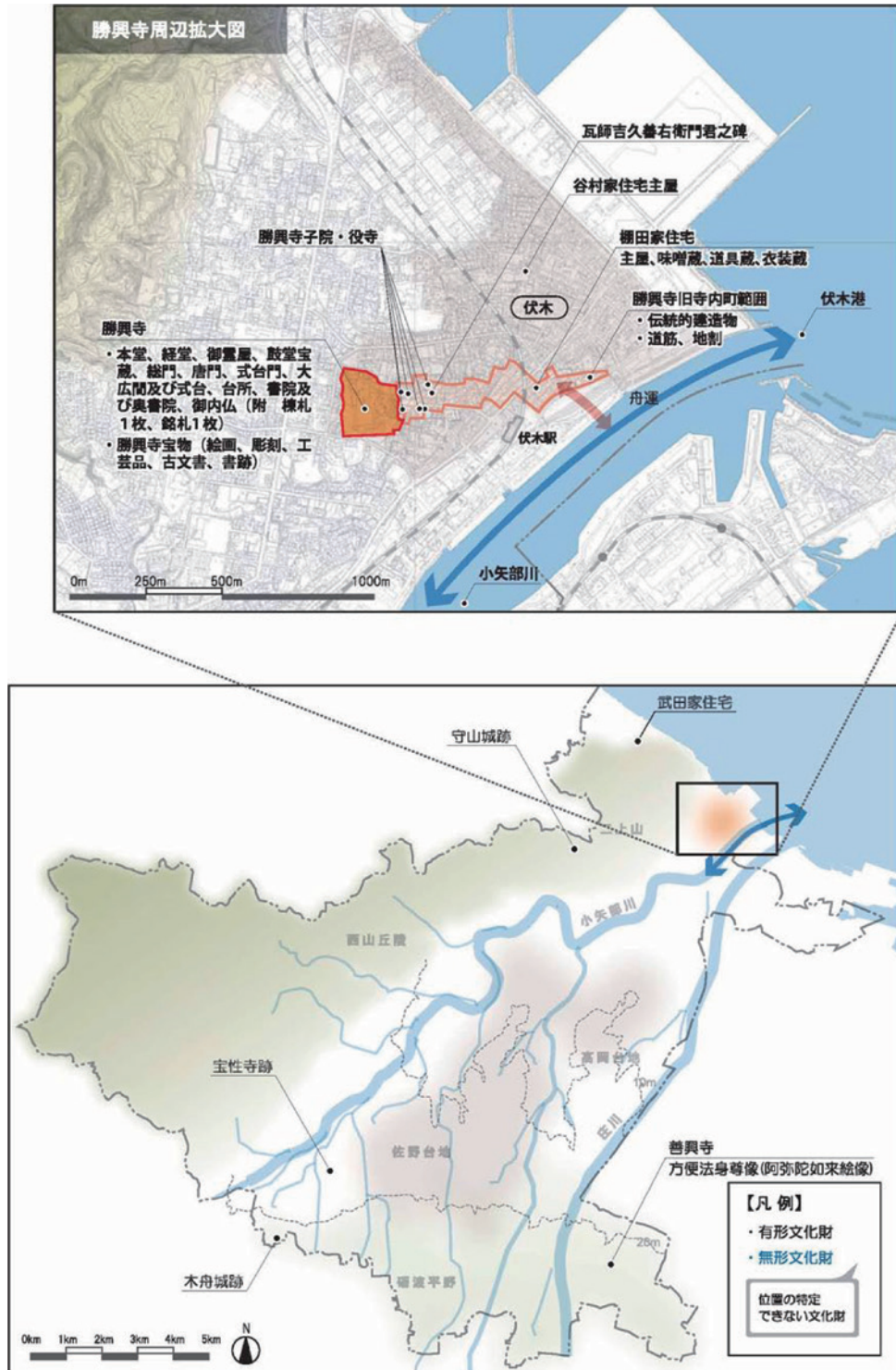
市内では幾度か大火があったものの、戦中に空襲による被害がなく、国泰寺や勝興寺、瑞龍寺といった大伽藍、仏像や仏画といった文化財が多く残されている。また、浄土真宗をはじめとして仏教が盛んであったことにより、銅器や漆器、仏壇など産業振興に大きな影響を与えた。仏教文化だけでなく市の歴史と産業を物語る文化財群である。

構成文化財

番号	種類	名称	時代	指定等
1	遺跡	御亭角廃寺跡	古代	
2	考古資料	八葉単弁瓦	古代	
3	考古資料	石名田木舟遺跡塼仏	古代	
4	遺跡	越中国分寺跡	古代	県指定
5	彫刻	伝越中国分寺木造天部像	古代	
6	彫刻	木造男神坐像	中世	国指定
7	彫刻	木造千手観音坐像	中世	国指定
8	建造物	国泰寺山門他	近世	
9	歴史資料	国泰寺宝物	近世・近代	
10	建造物	勝興寺本堂、大広間及び式台	近世	国指定(国宝)
11	建造物	勝興寺経堂他9棟	近世	国指定
12	絵画	紙本金地著色洛中洛外図屏風	近世	国指定
13	歴史資料	勝興寺宝物	中世・近世	県指定
14	古文書	勝興寺下張り文書	近世・近代	
15	建造物	瑞龍寺(仏殿・法堂・山門)	近世	国指定(国宝)
16	建造物	瑞龍寺総門他6棟	近世	国指定
17	歴史資料	前田家寄進の宝物	近世	県指定
18	絵画	紙本著色一塔両尊像、日蓮増、鬼子母神羅刹女像、絹本着色三十番神像	近世	国指定
19	絵画	絹本著色日蓮宗本曼陀羅図	近世	県指定
20	絵画	紙本著色釈迦十六善神像	中世	市指定

番号	種類	名称	時代	指定等
21	彫刻	木造烏芻沙摩明王立像	近世	県指定
22	彫刻	木造観世音菩薩立像	中世	県指定
23	彫刻	木造十一面観世音菩薩立像	中世	県指定
24	彫刻	木造文殊菩薩坐像	中世	県指定
25	彫刻	木造十一面観世音菩薩立像	中世	市指定
26	彫刻	木造聖観世音立像	中世	市指定
27	彫刻	木造阿弥陀如来立像	中世	市指定
28	彫刻	木造毘沙門天立像	中世	市指定
29	工芸品	鉄鉢	中世	市指定

構成文化財の分布状況



- 【課題】**
- 瑞龍寺や勝興寺の宝物のような指定等文化財以外の仏像や仏画など、未指定の美術工芸品の研究が不足している。
  - 寺院には貴重な文化財が多く残されており、地域と関わるものも少なくないが、地域への周知は十分でない。
  - 御亭角廃寺や越中国分寺など、越中の仏教遺跡に関する研究が十分でない。

- 【方針】**
- 寺院が所蔵する仏像や仏具等について、目録の作成等、調査を進めていく。
  - 公開に対する支援等、寺院の文化財を地域が理解し、支える体制づくりを進める。
  - 御亭角廃寺や越中国分寺について既往の調査資料を把握するとともに、遺跡の範囲や遺存状況の確認等、調査を実施する。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群④ 大寺院と仏教文化に関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	新規	寺院所蔵の美術工芸品の調査	寺院が所蔵する仏像や仏具等の把握調査を実施する。	○			○		
2	継続	地域の歴史文化資産調査支援事業 【再掲】	地域が主体となって行う美術工芸品の文化財調査を支援する。	○	○	○	○		
3	継続	市内遺跡発掘調査事業 【再掲】	埋蔵文化財の試掘調査及び発掘調査を行い、報告書を発行する。	○					
4	継続	市内遺跡既往調査整理事業 【再掲】	既往の調査結果について整理・研究を行う。	○			○		
5	継続	文化財の公開	寺院が所蔵する美術工芸品や建造物の公開に対し支援を行う。	○	○				
6	継続	勝興寺公開活用事業	宝物修理を進めるとともに、インバウンド対応等に向けた情報コンテンツ整備を図る。	○	○		○		

## 関連文化財群 ⑤ 祭礼行事に関わる文化財群

### 【概要】

加賀前田家は、武士や農民が奢侈に流れるのを憂い、極端なまでに勤儉節約を強要した。一方で、春秋の祭りは思う存分行わせた。娯楽施設に恵まれない多くの住民にとって祭礼は、神に感謝と祈念を込める行事であるとともに年に数度しかないレクリエーションであり、情熱が注ぎ込まれた。

村や小さな町では獅子と獅子あやし（天狗、シシトリ、キリコなど）、囃子方などで演じられる獅子舞が行われた。また、大きな町になると風流ふうりゅうと呼ばれる大掛かりな催し物が行われた。その代表的なものが高岡御車山祭である。

高岡御車山祭は、彫金・漆工・染織など高岡の伝統工芸の粋を集めた豪華な装飾が施された御車山をはじめ、祭礼のしきたり（巡行路や装束、宵山、囃子、所望等）、町のしつらえ、古文書など、近世からの伝統的な祭りの歴史を今に伝える文化財が残る。また、御車山の構造などが神霊を迎える依代としての古い形式を伝える点について民俗学的な価値を高く評価されている。

春秋の祭り以外にも、田祭り、虫送りといった豊作祈願のほか、金屋町の御印祭ごいんさいや木町の御書祭ごしょまつりなど開町の祖前田利長への報恩感謝、千保川・庄川の洪水予防など様々な祭礼が行われている。獅子舞は、現在も市内に広く分布し、それぞれ地域の宝として伝承されている。

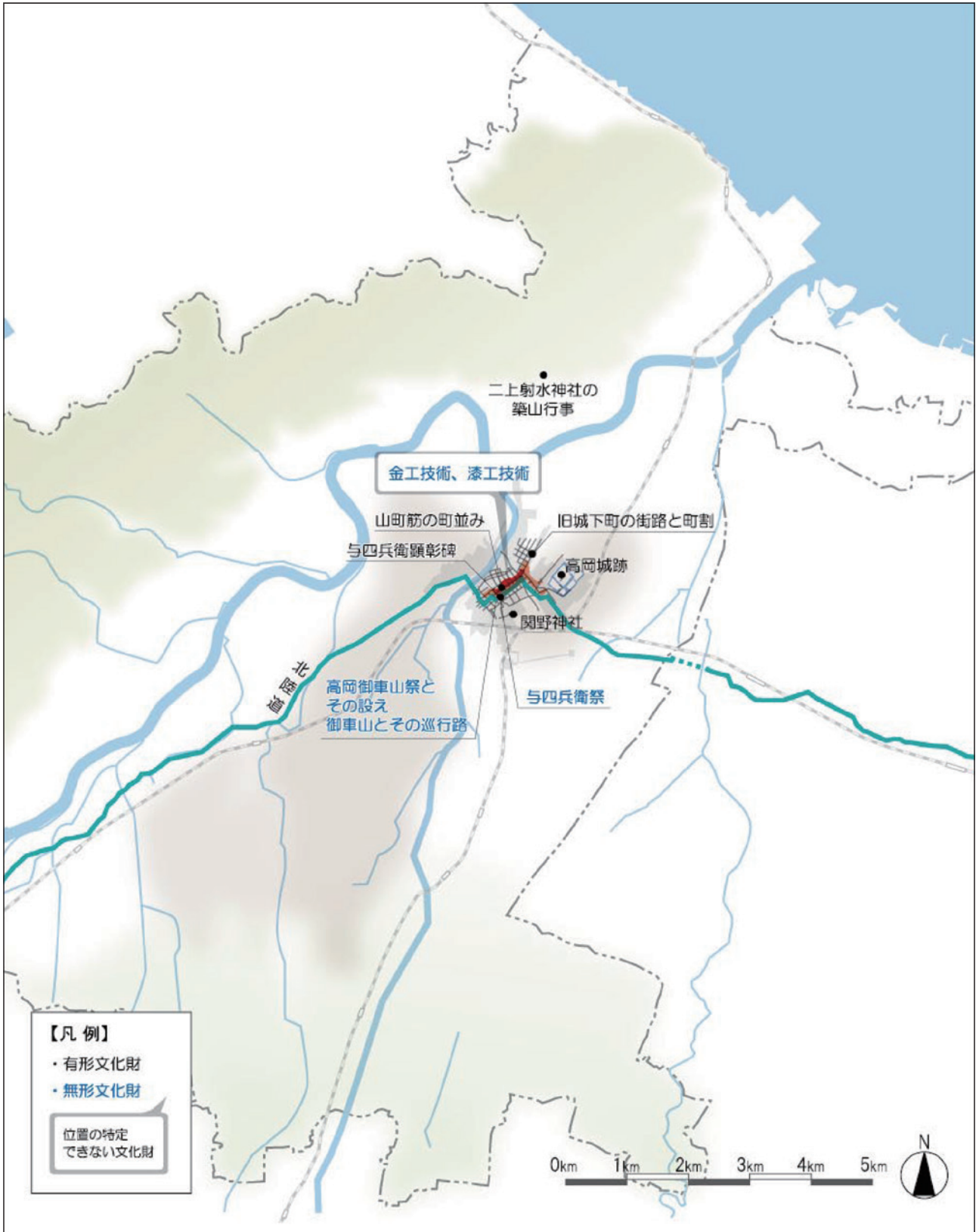
また、左義長や地蔵祭など地域に応じた年中行事が行われている。なかでも福岡地区では、地蔵祭りに野菜などを動物などに見立てて「つくりもん」として供え、現在は観光名物となっている。

これらの祭礼や年中行事は、時代の流れの中で形を変えながらも、今日まで古くからの精神や作法等を伝えており、人々の生活や信仰の推移を物語る文化財群である。

### 構成文化財

番号	種類	名称	時代	指定等
1	建造物	二上射水神社	近世	
2	民俗文化財	二上射水神社の築山行事	中世	県指定
3	建造物	高岡関野神社	近世	
4	民俗文化財	高岡御車山	近世	国指定
5	無形の民俗文化財	高岡御車山祭の御車山行事	近世	国指定
6	工芸品	高岡御車山	近世	県指定
7	古文書	御車山文書	近世	市指定
8	建造物	氣多神社	中世	国指定
9	無形の民俗文化財	氣多神社のにらみ獅子	近世	市指定
10	建造物	伏木神社	近代	
11	無形の民俗文化財	伏木神社春季例大祭の祭礼行事	近世	市指定
12	無形の民俗文化財	獅子舞	近世・近代	
13	無形の民俗文化財	御印祭	近世	
14	無形の民俗文化財	地蔵祭	近世・近代	
15	無形の民俗文化財	つくりもん祭り	近世・近代	

構成文化財の分布状況



- 【課題】**
- ・高齢化等により祭礼行事等の担い手が減少し、行事の継承が難しい地域が出ている。
  - ・祭礼行事は担い手の意識の変化によって変わっていくものであるため、現状の把握が必要である。
  - ・高岡御車山をはじめ、祭礼行事等に用いる衣装・用具等の修理を行う必要がある。

- 【方針】**
- ・指定文化財となっている祭礼行事に支援するとともに獅子舞などを披露する発表会を開催し、祭礼行事に興味を持つ人を増加させ、ひいては担い手の増加を図る。
  - ・所有者、地域とともに祭礼行事等の記録化を進め、保存と伝承に努める。
  - ・文化財保存団体が行う衣装・用具修理や保存継承活動への支援を行う。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群⑤ 祭礼行事に関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	継続	祭行事・イベント振興事業	高岡市内でも中核となる祭行事へ支援する。	○					
2	継続	高岡御車山会館における展示	高岡御車山会館で高岡御車山の魅力を紹介する。	○	○	○			
3	継続	獅子舞大競演会開催事業	市中心市街地において獅子舞に触れる機会を創出する。	○	○	○			
4	継続	文化財等修理補助事業 【再掲】	文化財の保存修理を行うことで高岡の伝統技術の継承を図る。	○			○		
5	継続	高岡御車山保存修理事業	「高岡御車山」の修理を実施する。	○	○		○		
6	継続	地域伝統行事・民俗芸能等継承振興事業	地域伝統行事の伝承のため用具修理などへ補助する。	○	○	○	○		
7	継続	コミュニティ助成事業	地域の祭礼・年中行事などの地域文化やコミュニティ活動を支援する。	○		○			
8	継続	民俗文化財記録保存事業	無形の民俗文化財の記録作成を行う。	○	○	○			

【概要】

加賀前田家2代当主利長は、慶長10年（1605）、弟の利常に家督を譲り自らは富山城に隠居した。しかし、富山城を火災で失ったため、慶長14年（1609）、高岡城を築城し、城下町を開いた。利長は、北陸道のルートを変え、城下に人・モノが集まる経済都市としての発展を図った。利長の死後、一国一城令が布告されわずか5年で廃城となった後は、家臣団が金沢に引き上げたため、急速にさびれ始めた。

3代当主利常は、高岡町人の他所への転出を禁じ、布御印押人を設置して麻布の集散地とし、魚問屋を創設して越中全域の魚介類を管理させるなどの振興策を行った。さらに米場と綿場の設置によって加賀藩の商業流通の一翼を担い、高岡町の経済的な隆盛をもたらした。

米場は、寛文年間（1661～73）に創設されたこととされ、3万石を超える米が武士への給料として払い出されるなど大量の米が高岡を中心に集散された。綿場は、寛永11年（1671）に設置され、文政7年（1824）には加越能3国で綿販売の独占権を与えられると綿取引は高岡に集中し、高岡町の経済発展に大きく寄与した。

高岡は問屋業が発達し、職人たちと協力して商品開発を行い、販路を広げていった。高岡町の中心地である山町には、北前船交易によって財を成した商人などが店を構えるなど入れ替わり、活気に満ちていた。

明治になると近世に蓄えた資本を銀行や工場などの産業基盤、港湾や鉄道などのインフラに投資し、工芸学校などの実業学校を誘致するなど、日本海側でもいち早く近代化に努めた。明治33年（1900）の高岡大火後、防火構造として重厚な土蔵造りで復興した山町筋からは高岡町人と近代化の歴史を示す。

明治6年（1883）に石川県から現在の富山県が分県する際、富山と高岡の有力者たちは「富山市ニハ県庁ヲ置キ、永ク県治総括ノ地」とし、「商業ノ事ニ至リテハ高岡市之レニ任シ」と地域の発展を目指す協定を約束した。やがて国家総動員体制によって産業再編成が強行されるまで、高岡は富山県における産業経済の中心であった。

空襲による市街地の被害がなかったことから戦後の復興も早く、昭和26年（1951）、高岡古城公園を会場に高岡産業博覧会を開催し、50日間の会期中に62万人を超える来場者を集めるほどであった。

昭和40年（1965）の県内初の公営市場である高岡市総合卸売市場（現高岡市地方卸売市場）の建設や昭和47年（1972）の高岡問屋センター設立など行政と連携して卸売業の近代化を図っている。

また、昭和41年（1966）、日本国有鉄道と地域が共同建設する民衆駅方式で高岡駅（高岡ステーションビル）を建設し、さらに4年後の昭和45年（1970）には北陸初の地下街を整備した。当時地下街の多くは大都市のみであり、人口16万人の高岡に北陸の商都の気概が感じられる。高岡町の気風を伝える文化財群である。

構成文化財

番号	種類	名称	時代	指定等
1	遺跡	守山城跡	中世	市指定
2	遺跡	高岡城跡	近世	国指定
3	古文書	前田利長公御親書	近世	市指定
4	古文書	利長文書	近世	市指定
5	伝統的建造物群	山町筋伝統的建造物群保存地区	近代	国選定
6	建造物	菅野家住宅	近代	国指定
7	建造物	筏井家住宅	近代	県指定
8	建造物	旧室崎家住宅	近代	市指定
9	伝統的建造物群（建造物）	旧高岡共立銀行	近代	市特定
10	建造物	旧秋元家住宅	近代	市指定
11	古文書	御旅屋古図	近世	市指定
12	古文書	明和八年製高岡町図	近世	市指定
13	古文書	前田利長書状	近世	市指定
14	遺跡	加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）	近世	国指定

番号	種類	名称	時代	指定等
15	遺跡	瑞龍寺の石廟	近世	県指定
16	建造物	五福町神明社本殿	近世	市指定
17	建造物	大手町神明社拝殿	近世	市指定
18	遺跡	北陸道		
19	建造物	高岡市立博物館	現代	
20	建造物	恵比寿塔	近代	

### 構成文化財の分布状況



- 【課題】**
- ・守山城跡や高岡城跡、前田利長墓所、山町筋伝統的建造物群保存地区など、高岡町の成立に関わる文化財の調査・整備が不十分である。
  - ・高岡築城の開町時期に比べ、高岡商人の調査研究が進んでいない。特に高岡町と北前船の関係が不十分である。
  - ・高岡が飛躍した近代の歴史について、市民の認知度が十分でない。

- 【方針】**
- ・守山城跡や高岡城跡、前田利長墓所、山町筋伝統的建造物群保存地区などの調査・整備を進める。
  - ・北前船関連の資料の収集及び把握されている資料の調査を行い、高岡町との関係を研究する。
  - ・高岡商人に関する文化財の活用を図り、近代の高岡の歴史について分かりやすく周知を行う。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群⑥ 商工業のまちの成立と繁栄に関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	継続	前田家関連史跡調査事業	守山城跡の詳細調査を進める。	○			○		
2	継続	高岡城跡保存活用事業	保存活用計画、整備基本計画に基づく保存整備事業を実施。	○	○		○		
3	継続	前田利長墓所保存活用事業	保存活用計画、整備基本計画に基づく保存整備事業を行う。	○			○		
4	継続	山町筋伝統的建造物群保存地区保存修理事業	山町筋における伝統的建造物の修理、修景事業の実施。	○	○				
5	継続	博物館資料収集事業	高岡の歴史・民俗・伝統産業関連の資料を中心に収集・保存を行う。	○					
6	継続	地域資料継承支援事業【再掲】	産学官連携によって、地域資料（古文書等）の把握調査を行う。	○			○		
7	新規	地域資料目録作成事業【再掲】	把握した地域資料の中から、目録作成を行う。	○			○		
8	継続	地域の歴史文化資産調査支援事業【再掲】	地域が専門家とともに美術工芸品の文化財調査を支援する。	○	○	○	○		
9	継続	博物館調査研究事業	収蔵資料の調査・整理・研究等を行う。	○					
10	継続	古文書調査事業【再掲】	中央図書館が所蔵する高岡史料の調査を行う。	○					
11	新規	高岡町人に関する調査事業	高岡の歴史文化の特徴である高岡町人について調査を進める。	○					
12	新規	「赤レンガ建物」利活用事業	山町筋伝統的建造物群保存地区内の旧高岡共立銀行について民間活力を活かし、文化財的価値の保存と交流拡大につながる機能の両立を図る。	○	○				

【概要】

弥生時代の石塚遺跡における玉づくりや、古代の東木津遺跡の漆工房、室町時代の宇多の刀など高岡市域では古くから優れたものづくりが行われていた。

近世、高岡町は商人の町であり職人の町であった。家具や漆器のほか、染物、和傘などが生産されたが、最も特徴的なものは鋳物である。

高岡の鋳物業は、藩の保護や特権が与えられており、最初は、鍋・釜などの鉄器具類が作られていたが、やがて銅器を生産するようになった。高岡の商人は、広く販路を求めるとともに顧客の用など様々な情報を持ち帰り、鋳物師・細工師・仏具師らを結びつけ、需要に応じた様々な銅器を生産した。江戸時代後期には全国各地に販路を広げ、19世紀中頃からは海外貿易も行った。

明治時代には、金沢や富山などから彫金師達を吸収し、美術工芸のさらなる技術向上を図り、万国博覧会で賞を得る一方で、設備の近代化を図り、工業品として販路を拡大した。高岡産のニシン釜は、明治の北海道を支えたニシン肥料製造の必需品となり、現在も北海道各地に残されている。

漆器は幕末から明治にかけて勇助塗や錆絵、青貝塗、彫刻塗などの技法が生み出されて高岡の特産となった。染物は、近世以来の技法を工夫し、新しい色彩感覚と経済性を併せ持ち、昭和初期には京都を抑えて生産額全国一となった。さらに鋳物技術を活かしたアルミ産業は高岡の主要な産業のひとつとなっていく。

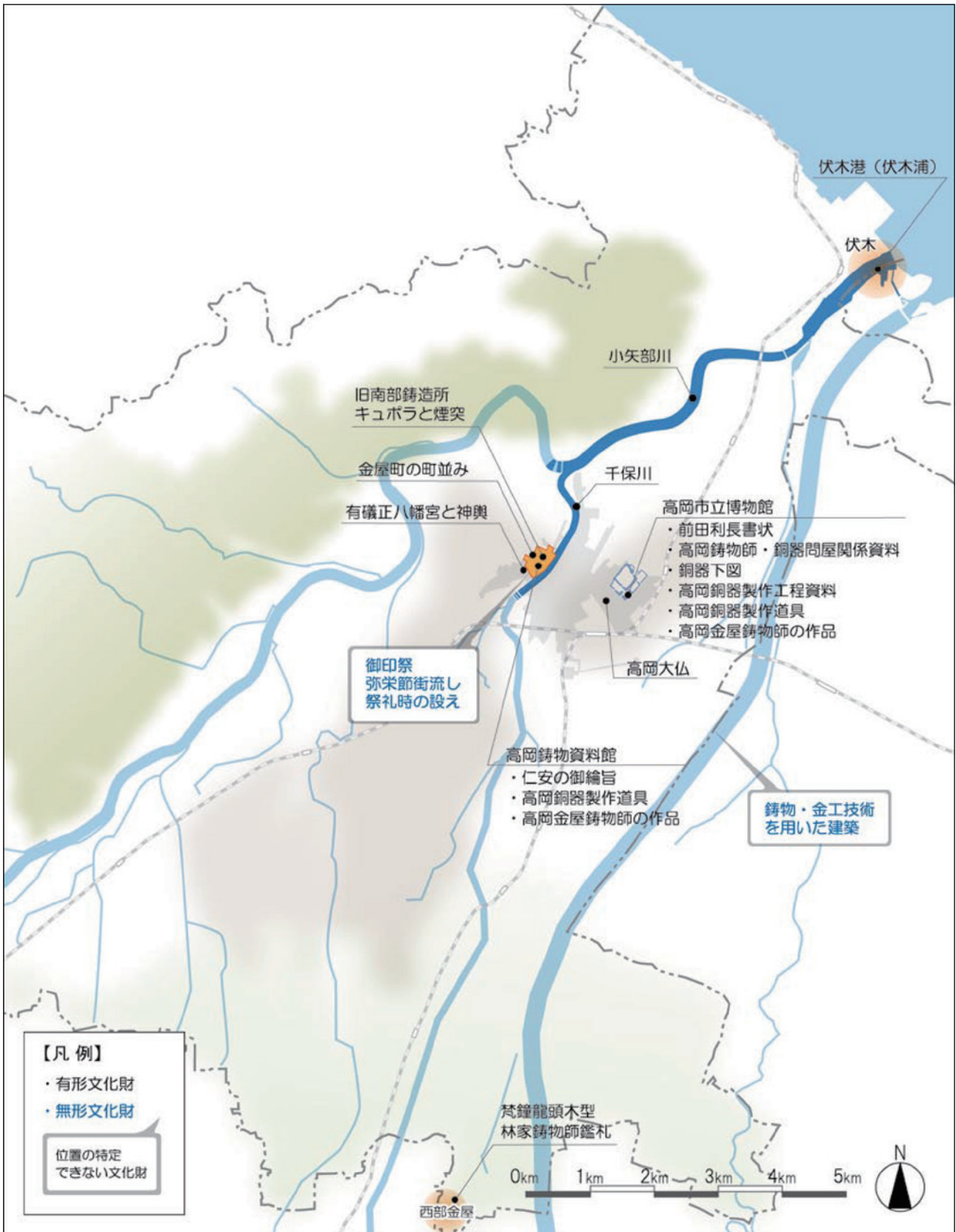
銅や綿など原料を産出せず、地理的に恵まれているとは言えない高岡において様々な産業が興るのは、高岡に人とモノが行き交い、ものづくり文化が根付いているからである。

市内には、鋳物師の町並みである金屋町をはじめとして鋳物や漆器の製作技術や道具類、工芸作品などがのこされている。ものづくりのまち高岡を象徴する文化財群である。

構成文化財

番号	種類	名称	時代	指定等
1	遺跡	石塚遺跡	原始・古代	
2	遺跡	東木津遺跡	古代	
3	工芸品	槍銘 宇多勝国	中世	市指定
4	伝統的建造物群	山町筋伝統的建造物群保存地区	近代	国選定
5	伝統的建造物群	金屋町伝統的建造物群保存地区	近代	国選定
6	古文書	仁安の御繪旨	近世	市指定
7	古文書	前田利長書状	近世	市指定
8	有形の民俗文化財	梵鐘龍頭木型	近世	市指定
9	有形の民俗文化財	高岡鋳物の製作用具及び製品	近世・近代	国登録
10	建造物	旧南部鑄造所（キューボラ・煙突）	近代	国登録
11	工芸品	時鐘	近世	市指定
12	工芸品	鰐口	近世	市指定
13	工芸品	高岡御車山	近世	県指定
14	工芸品	有磯正八幡宮神輿	近世	市指定
15	工芸品	木蓮に小禽図飾金具	近世	市指定
16	工芸品	竹虎紋金銀象嵌鰐	近世	市指定
17	工芸品	菊花文飾壺	近世	市指定
18	彫刻	銅造十千面觀世音菩薩坐像	近世	市指定
19	彫刻	銅造随神像	近代	市指定
20	工芸品	武人文大香炉	近代	市指定
21	工芸品	麟鳳亀龍文金銀象嵌三段盛器	近代	市指定
22	工芸品	福寿文勇助塗飾棚	近代	市指定
23	彫刻	銅造阿弥陀如来坐像	近代	市指定
24	歴史資料	高岡捺染 笹原文次関係資料	近代	

構成文化財の分布状況



- 【課題】**
- 従事者の高齢化などによって担い手が不足し、事業継続が難しい事業者が出てきている。
  - ものづくりのまち高岡を支えていくため、市民の意識醸成を図る必要がある。
  - 地場産業の販路拡大・付加価値向上など競争力の強化を図る必要がある。
  - ものづくりのまち高岡の国内外への発信が不十分である。

- 【方針】**
- 伝統産業の高度かつ希少な技術の継承への支援や伝統技術を継承する人材養成を行う。
  - 学校における「ものづくり・デザイン科」事業等、優れた技術を持つ人々と市民の交流の機会を設け、ふるさとの伝統と誇りへの理解を図る。
  - 銅器、漆器、菅笠など伝統産業分野におけるブランド化や新製品開発、新技術や新素材の研究開発などを促進するとともに新たな販路の開拓やマーケティング強化に努める。
  - ものづくり体験の観光活用や環境整備などを行い、国内外へ魅力発信を行う。

**【措置】**

**措置一覧（関連文化財群⑦ ものづくりに関わる文化財群）**

No.	新規 /継続	事業名	事業概要	主たる取組主体				実施期間	
				行政	所有者等	地域	専門家	前期	後期
1	継続	伝統工芸産業人材養成スクール事業 【再掲】	伝統工芸産業に関わる人材に対し、技術習得を目的としたスクール事業を実施。	○					
2	継続	創業・事業継承支援補助事業 【再掲】	ものづくりを中心とした創業、第二創業及び事業承継による新たな取り組み又は後継者人材育成の取り組みに対し、補助する。	○					
3	継続	文化財等修理補助事業 【再掲】	文化財の保存修理を行うことで高岡の伝統技術の継承を図る。	○			○		
4	継続	デザイン・工芸センターの運営	デザイン・工芸センターの運営を行う。	○			○		
5	継続	高岡地場産業センターへの支援	高岡地場産業センターの運営を支援する。	○			○		
6	継続	ものづくり・デザイン科推進事業 【再掲】	高岡市の伝統工芸について体験を通じた学習を行う。	○			○		
7	継続	文化財施設における展示・講座 【再掲】	文化財施設において展示・講座を実施する。	○			○		
8	継続	金屋鋳物師町交流館整備事業	地域の鋳物関係者をはじめ様々な人の交流を促進し、伝統産業と地域の活性化を推進する。	○		○			
9	継続	工芸都市高岡クラフトコンペの実施	新しい産業工芸の動きを誘発するまち高岡を全国に発信し、商品開発や販路開拓つなげる。	○		○	○		
10	継続	金屋町伝統的建造物群保存地区保存修理事業	金屋町における伝統的建造物の修理、修景事業の実施。	○	○				
11	継続	工房見学・ものづくり体験の実施	伝統工芸技術を活かした工房見学やものづくり体験の実施などを行う。		○		○		
12	継続	ミラレ金屋町開催事業 【再掲】	町家暮らしや伝統文化を体験する「ミラレ金屋町」を開催する。	○	○	○			
13	継続	新たな芸術・文化創造推進事業	歴史的建造物や町並みを活用し、伝統文化や現代的文化活動など本市の文化の多様性とものづくり（アート&クラフト）を表現した交流イベントや歴史・文化の魅力を発信する。	○		○			